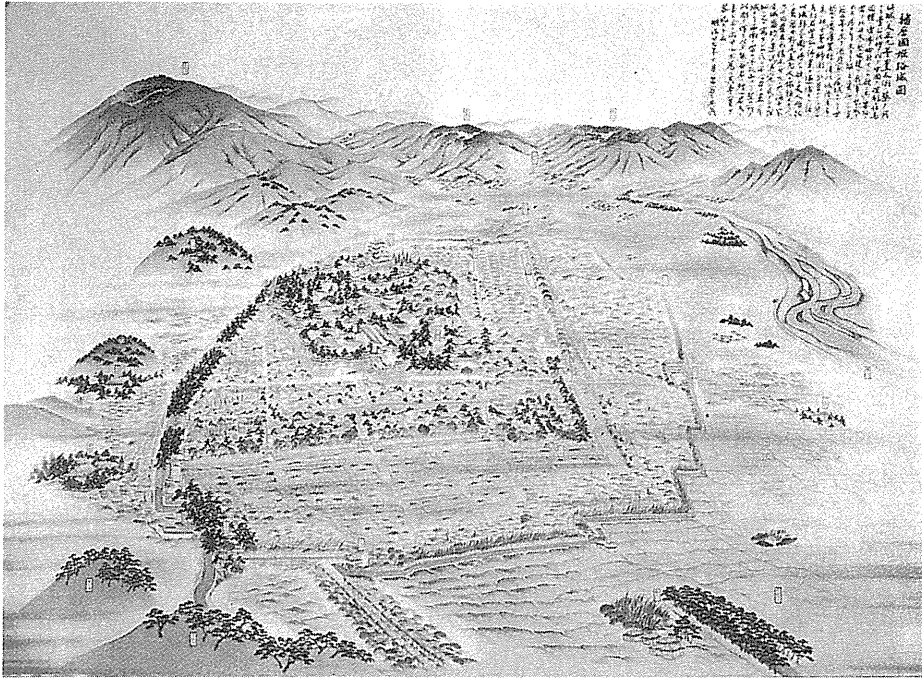




『播州姫路の城下町』をたずねて

つじつじ い
辻々に出ずれば城の見ゆるまち

姫路の空の今朝のよき晴れ 「郷土の城ものがたり」より



▲姫路城図(大阪城天守閣蔵)旧藩士高橋正身が明治27年に描いたもの

姫路は播州の中心地、古代には国庁が置かれ、近世には名城がつくられた。内濠以内には城郭を、内濠と中濠の間には侍屋敷を、中濠から外濠の間には商家や寺・組屋敷を置いて防備した。城外にも四方へ延びる街道に沿って町が発達している。姫路の城下町は慶長5年(1600)城主になった池田輝政が八十八町の町割をしてつくったものという。

明治7年、大阪鎮台が駐屯して以来、中濠以内がすべて軍用地になったので侍屋敷は取り払われてしまった。また昭和20年の空襲で内町のほとんどが全焼した。しかし濠や土塁はよく残り、82棟にも及ぶ白垂の城の建物とあいまって、町に風情を与えている。

北	猶	勲	旬	准	兗	瓦	五
因	思	藩	服	鎮	州	紋	畳
州	今	今	昔	興	曾	時	の
路	日	時	時	す	つ	に	城
に	山	喉	臂	に	て	見	楼
走	陰	牙	指	堪	啓	る	古
り	道	を	に	え	く	桐	霞
て	を	経	扼	随	阿	花	を
又	略	す	す	い	購	を	挿
を	せ				匡	の	み
作	し				胤	業	山
す	を				の	刻	陽
					家	む	



秀吉	秀長	木下	池田	本多	松平	松平	神原	松
龍野町築市楽座の制札 三層天守建設		石灯笼 (総社①)	三左衛門堀構築 姫路城築城	輝政塔 (正法寺②) 男山八幡宮再建③ 八代御茶屋造営	西の丸造営 船場川改修碑④ 船場御坊造営⑤	男山天満宮造営⑥ 本多家廟 (書写山)	国分寺再建 (御国野町)	直基墓 (書写山) 総社石鳥居⑦
							政房墓 (書写山) 忠次墓 (増位山) 随願寺再建 (増位山)	大歳社石鳥居 (八代) 男山八幡宮石鳥居⑧

〔城主〕
〔遺跡・遺物〕

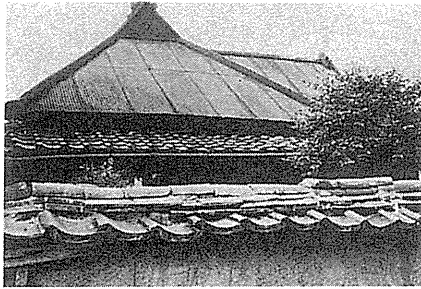


(昭和50年ごろ)

龍野町⑨ 船場川⑩の西、旧山陽道沿いに6丁目まで続く。天正8年(1580)秀吉が姫路に築城するのと同時に、ここで築市楽座を行なわせて商人を呼び寄せた。そのときの制札の拓本が天守閣に展示してある。



のうにん
農人町 龍野町のすぐ北の通り、道に面する軒先が一軒ごとに食い違い、道のはしがノコギリの歯の形をしている。このような町並は、龍野町、小利木町、米屋町、福居町など城下町の周辺の町にある。

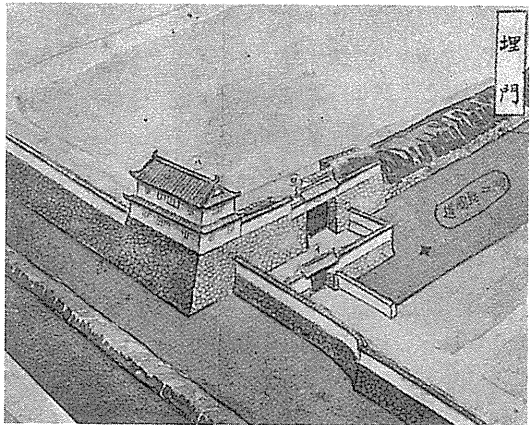






寺の町 五軒邸⑪から坂田町⑫にかけて寺が並んでいる。防衛上考え出されたといわれる。

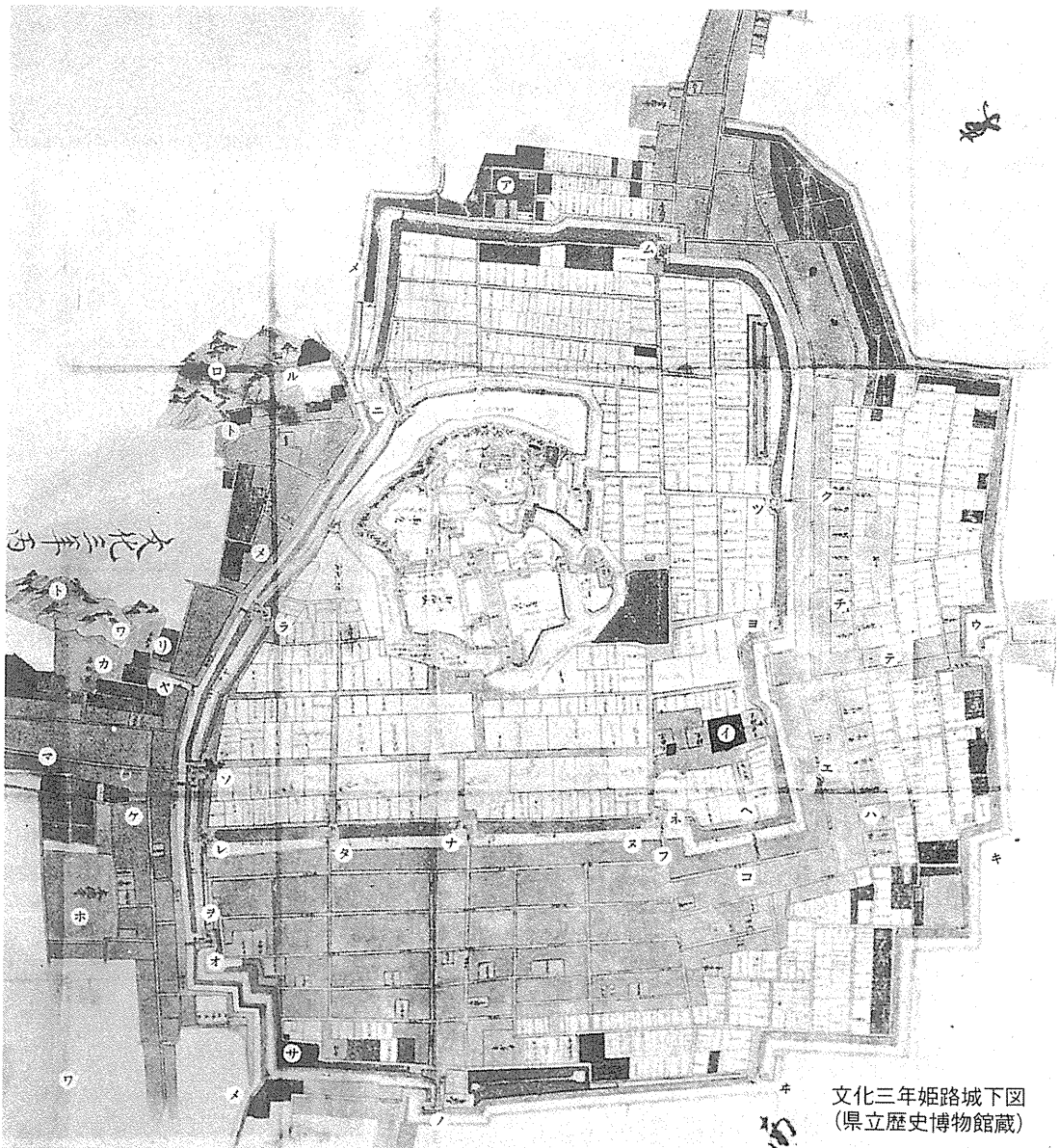


侍屋敷 鷹匠町・坊主町・同心町等に今も残っている。

うずみもん
埋門⑬ 多田初治氏の復元図



								
二七〇〇								
平	本	多	榑	原	松	平	酒	井
	刑部社石灯籠(総社イ)	忠国墓(書写山)	政祐墓(書写山) 政邦側室墓(増位山) 政邦夫妻墓(増位山) 男山八幡宮石鳥居㊦		明矩墓(景福寺山ト)		溺死菩提碑 (四郷町山脇) 溺死回向碑 (法華寺チ)	藩校好古堂建設 溺死供養碑(見星寺リ)



文化三年姫路城下図
(県立歴史博物館蔵)



酒

井

明治

好古堂額
(姫路城天守閣内)

固寧倉額 (姫路城天守閣内)
固寧倉 (市内五ヶ所現存)
河合家墓地 (兼田)
仁寿山校 (奥山)
東山燒窯跡 (男山) (丸)
切手会所の碑 (丸)

木綿江戸積仲間玉垣
(大善町・天神社)

勤王志士墓 (船場御坊) (丸)
勤王志士墓 (大藏前公園) (丸)
勤王志士終焉之地の碑

忠績妻墓 (景福寺) (丸)
忠宝妻墓 (景福寺) (丸)
忠学妻墓 (景福寺) (丸)
(千代田町公園) (丸)
室街道石灯籠

外濠 東北部から東南にかけて残っているが、その内側にあった土塁は取り除かれた。南部の外濠は姫路駅のすぐ北を東西に走っていたが、明治年間に埋められた。

中濠 南部は埋められて2号国道になったが土塁はよく残り、その他の中濠と合わせて城塞の面影をよくとどめている。中濠以内が特別史跡。

内濠 東部の動物園のあたりだけが埋められている。

よく残っている門 内京口門 (丸) 鷗門 (丸) 埋門 (丸) 車門 (丸)

半壊している門 久長門 (丸) 総社門 (丸) 中ノ門 (丸) 市之橋門 (丸) 清水門 (丸)

全壊した門 野里門 (丸) 鳥居先門 (丸) 外京口門 (丸) 北条門 (丸) 飾磨門 (丸) 備前門 (丸)

商店の名を残している町 魚町 呉服町 元塩町 綿町 豆腐町 材木町
小利木町 米屋町

職人の名を残している町 大工町 紺屋町 (鋳物師町) 鍛冶町 (伽屋町) 金屋町

侍の職名を残している町 同心町 忍町 小姓町 鷹匠町 坊主町

播磨国総社 (丸) 平安時代の末に播磨国内の174社を合祀した。歴代城主の信仰が厚く、銅鐘は赤松義村が永正3年(1506)に寄進したもの(昭和43年市指定文化財)。南参道の大鳥居は慶安5年(1652)に榊原忠次により寄進され、昭和59年に県指定文化財となる。

正明寺 (丸) もと姫山にあったが築城のとき移された。境内の板碑は南北朝時代のもので県指定文化財。

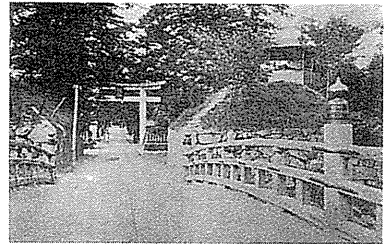
船場川 (丸) と舟入川 (丸) 船場川は飾磨津からの舟の交通路、年貢米を納める蔵も、この川のほとりにあって、そこには大藏前町の名が残っていた。舟入川は船場川を上下する舟をつないだり、荷物の積み降ろしをしたところで、今は埋め立てられて公園になっている。

山陽道 龍野町 (丸) — 博労町 (丸) — 備前門 (丸) — 綿町 (丸) —

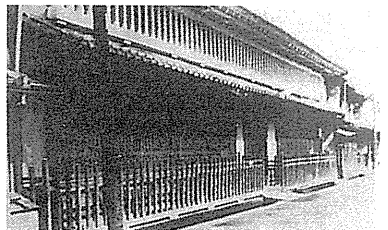
元塩町 (丸) — 東魚町 (丸) — 国府寺町 (丸) — 外京口門 (丸) —

その他の見どころ 稲妻形道路 (坊主町) (丸) お菊神社 (十二所神社境内) (丸) 刑部神社 (豎町) お夏清十郎比翼塚 (慶雲寺)

姫路神社 (姫山公園) 寸翁神社 (姫路神社境内) 河合惣兵衛顕彰碑 (外濠公園) (丸)



▲総社南鳥居 (丸)
(姫路紀要より)
今は鳥居の前を左右に
国道が走っている。



下寺町の侍屋敷 (昭12) ▼
(高橋秀吉氏撮影)
▲御切手会所 (昭10)
藩札を発行したところ、
文政三年(一八二〇)河合
寸翁の発案でつくられた。
ここで木綿の取りも行
なった。戦災で焼失。

